



各府縣交通取締の状況に就て

都 (前承)

督 生

道路は國家の血管であります

一 道路の性質

道路の諸處の辻角などに、將棋の駒のやうな札を建て、「左側通行」と書いてあり、又交通頻繁なる處には警察官が道路の中央に立つて、普ね行人に對して左側通行の指示をなすは、抑も何の爲めであるか?

今少しく之を説明致しますから、皆様は良く之を父母兄弟姉妹其他知人に御傳へになり而して道路効果の發揮に努められんことを切望する次第であります。

皆様が住つて居られる家庭を一步外に踏み出せば

道路によらねばなりません、斯の如く道路は人間生存上最も重要な基根にして、之れ無くては人類の活動も國家の進運も望まれないのであります。

○ 國家の構成

皆様は無論日本帝國を御存知であります、それは我々の住んで居る國であります、其の國と云ふ字は戈口一門といふ四つの文字から成立して居るのであります。

○ 戈

戈は武器即ち主權を意味し、口は人口、一は土地

でありまして一平定の土上に人口を有し、其上に君

主が主權を以て統治し此の三つを口(クニガマエ)中に納めて一團を成して居るのであります。

○ 死

此の國なるものは一つの生物とも云ふべく、發展して大なる國家ともなり、また衰微して亡びもあるのであります、人間の體軀も亦國家と同様に一つの生物であつて、其の体内には夥多の血管があり其の中を血液が絶へず循つて人体を養つて居るのであります、若しも其血が循らなくなつた時は死の外ないのであります。

○ 血の循りの悪い人

夫れで血は人体に對して一日も缺くことの出來ない至上の寶であつて、之れが絶へず体内を循つて居なければなりません。

血の循りの悪い人は身体に故障のある病人か何かであつて、昔から馬鹿な人を血の循りの悪い人と

○ 血の循りとは何

○ 人間生存の要素

血の循りの良好な人は無論健全であります、血液は——食物の營養素から消化作用によつて——心臓から大動脈小動脈毛細血管等を通して体内を絶へず循環して身體を養ひ、次で大小の靜脈血管に依り再び心臓に歸つて来る、之を稱して血が体を循るといふのであります。

斯様に人間が生存する要素として、血が心臓より出で、又心臓に歸る迄大中小の動脈大中小の靜脈を往復するには血管を通らなければなりません、人体に對し血管は斯の如く、重大なる關係を有するのであります、人体の診斷に醫者が第一に血管を押へて血行を考察するのも寛に道理であります。

○ 富強國民の德澤

今國家と云ふ生物に就て考へまするに、これも人體と同じく、その生存發達に對しては血と血管とが必要であります、然らば國体を營養、發展せしめ健全なる國家——五大強國——一等國——たらしむる血（營養素）は何であるか？夫れは我々國民であります、人の体内に血が循環して生きられ活動されるが如く、國體に於ても血液たる國民が活潑に循環交通して健全なる發達を遂げ富強なる國家の德澤に浴することが出来るのであります。

○人間の死期

○國家の敗滅

血液が順調に人体を循環活動せざるに至れば既に死期の近づけるを知るべく、國家に於ても生民の交通が微弱にして振はざれば國家も亦衰亡の外ないのです然らば國家の血管は何であるか？國民が自由に往復循環し活動交通の根源を爲すところの道路であります、即ち道路は國家の血管であります道

路は恰も人間の体内に於ける血管即ち血の通ふて居る動脈靜脈と同じく實に大切此上もないものであります。

○道路を重んぜよ

斯の如く大切な血管が若しも、破壊されたならば丁度人体は負傷せると同様名前こそ異なれ土木係りと云ふ醫師の治療を受けねばなりません、それには尠ながら費用がかかります其費用は我々の頭にかかるのでありますから道路は大切に使用し、支障の起らぬ様に丈夫に造り協同愛護して行くといふ道路公徳を守らねばなりません、先年愛知縣下に於て出水のために道路破壊され爲めに數村糧道を絶たれ已むなく十餘里を鐵路にてそれよりまた七里餘を逆輸入せるため積卸運搬等に思はざる費用を要し且尙二割何分高の米麥を漸やく五日目に得たる實例もあり、又石川縣下に於ても同様交通杜絶し學校生徒が二日間歸宅するを得ず、また山形縣下に於ては醫

者への往還を停滞せしむること五十餘日爲めに死者の死亡診斷書を得るに困難なりしのみならず賣薬の如きも形を秘め定價にては容易に得る能はず、また鳥取縣下に於ても郵便電信十數日に亘りて杜絶し、大分縣と宮崎縣との疆界なる鏡山にては七十餘日の間野菜を得ず全山病態に陥り、又靜岡縣沼津なる某醫院の經營する某山分院の如きは四方交通困難にて他より出張するが如きは絶対に之れ無き爲め、各患家は分院を救生主として敬意を表し低頭平身、他より之を見るときは一種悲哀の感ありといふ。

又同縣金谷より隣町島田に至るには大井川の渡りありて片渡八錢一往復十六錢一を要し降雨に際しては渡し止めとなり學校生徒の通學不能等は隨時之を繰返す状態なりといふ、大小の差こそあれ斯の如きは他の地方に於ても亦屢々聞くところにして、又近くば關東地方の震災に於て食糧輸送に盡した道路の恩恵は一般の記憶に新たなるところであります。斯く堅牢なる道路と橋梁とが如何に國家民生の活

動上將た生存上必須重要なものなるかは略御判りになつたことを信ずる。

○利用厚生

されば皆様は今後日本國家といふ生物が少しでも病氣に罹ると云ふ様なことの無いやうに其の血管を大切に愛護保存するといふ思想を持して道路公徳を普ねからしめ一旦緩急に際しては諸種の輸送に些障なからしめ、道路の効果利用厚生に盡瘁するところあらむことを希望する次第であります。

斯く大切な道路にも血管と同じく大小色々な種類があります、即ち國道、府縣道、市道町村道等であつて、國家が自分の体を養ふ爲めに始終血液たる國民を循環せしめて居るので、始めて國民が安全に自由に活動する事が出来る譯であります。

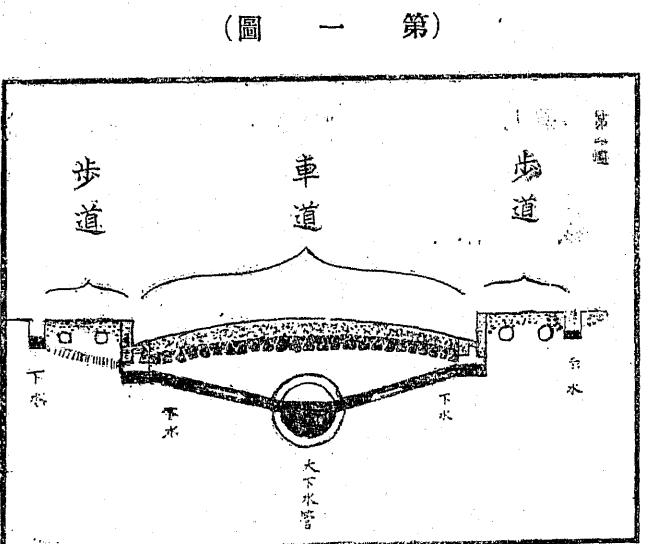
二 道路の構造

前項に於て道路なるものが、國家に對し又國民に取り切實緊要缺ぐ能はざるものなることが御判かり

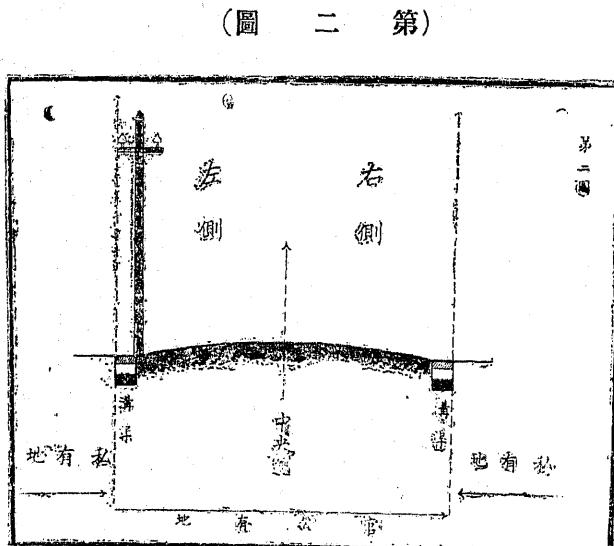
になつた事と思ひますから諸君は今後國家と云ふ生物が少したりとも病弱に陥らぬやう其血管たる道路を大切にする事を忘れぬやうに希望いたします。これより進んで道路の構造即ち國家の血管は如何なるかを大体圖に依て説明致します。

本國は進歩せる街路の横断面にして中央は車道であります、車道の造り方は、一番下の基礎工事即ち路床の地盤を固めて割栗を敷並べ、其の上に土を被せ然后に砂利セメント等種々なる鋪装材料で其地に適合するやう金鉢形に勾配を付し雨水等の流去に便ならしめ、而して容易に兩側の溝に入り、更に地下の暗渠下水道に流れ、最後に河海等の排出口より出るやうになつて居る、車道は字の如く車の専用する道であつて、自動車或は荷車または人力車等の如きもその往来する道である、但し小兒車の類は人道即ち歩道を行くことになつて居ます、車道の兩側にあるのが即ちそれであつて徒步する爲めの道である、何故に如斯區別した?それは小學生徒諸君でも容易に判断するとの出來る問題であつて、説明する必要もないが、簡単にいへば、一、交通を敏活ならしめ二、

事故を防止すると云ふことが其の主なる目的である、斯くして一般に道路の規則を守り左側通行を勵み、然るに世の中には他人の物と自分の物との區別を知らない者が往々有るやうです、之れは泥棒同様で山陰地方では俗に之を手長猿と云つて居ります、言ふまでもなく道路は國のものであるか、或は公共團体の物であり、各人勝手に使ふことはいかぬ、即ち國家の血液たる國民が相共に通行する爲めに築造されたものであるから、常に公衆の字を忘れてはならぬ、而して歩車道の區別なき道路に於てもお互に左側左側と往來すれば他人に迷惑を掛けず從つて交通事故も起らぬ譯であります、狹き地方道路に於ては常に事故を起し勝ちなので陸軍側では電柱の撤去を高唱して居りましたが、内務省は種々調査の末、道路法の發布に連れ道路取締令を制定し、遞信用の電柱と雖も之を路面上に建つるに當りては、先づ道路管理者に許可を受けねばならぬ、而して道路管理者は他に之を建つる適當なる場所無き等の理由がなければ許可出來ないことになつたので、陸軍に於てもまた一般車馬の交通にしても、將來は大に支障が緩和されることゝ思ふ。



(圖) 第一圖



(圖) 第二圖

○道路の使用と保存方法

第二圖は左側右側を示す圖であります、道路は凡

ぬ、然るに世の中には他人の物と自分の物との區別を知らない者が往々有るやうです、之れは泥棒同様で山陰地方では俗に之を手長猿と云つて居ります、言ふまでもなく道路は國のものであるか、或は公共團体の物であり、各人勝手に使ふことはいかぬ、即ち國家の血液たる國民が相共に通行する爲めに築造されたものであるから、常に公衆の字を忘れてはならぬ、而して歩車道の區別なき道路に於てもお互に左側左側と往來すれば他人に迷惑を掛けず從つて交通事故も起らぬ譯であります、狹き地方道路に於ては常に事故を起し勝ちなので陸軍側では電柱の撤去を高唱して居りましたが、内務省は種々調査の末、道路法の發布に連れ道路取締令を制定し、遞信用の電柱と雖も之を路面上に建つるに當りては、先づ道路管理者に許可を受けねばならぬ、而して道路管理者は他に之を建つる適當なる場所無き等の理由がなければ許可出來ることになつたので、陸軍に於てもまた一般車馬の交通にしても、將來は大に支障が緩和されることゝ思ふ。

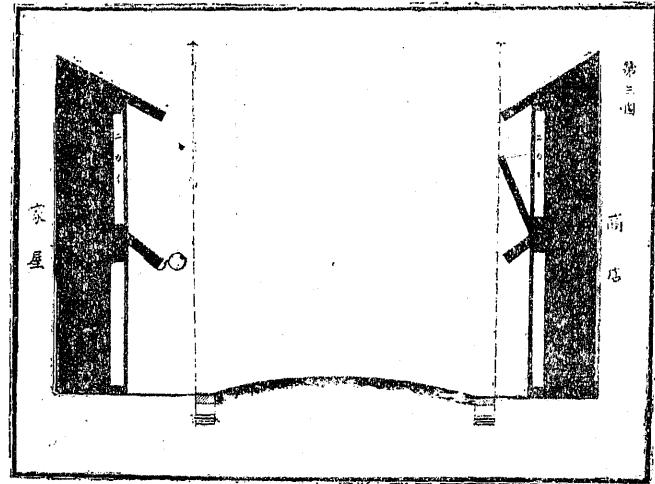
第三圖は道路に沿ふて家を建てる場合を示したもので、國家又は公共團体の物で私人の占有はいけませ

ので、左側の家屋は二階の軒も擔も道路より一尺許り置いて建てられてある、誠に思慮ある建て方で、

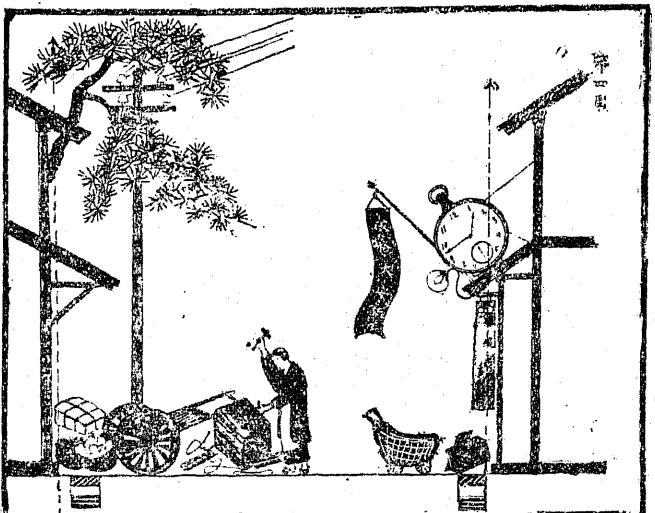
所から押して先づこれ位いなれば適當であろう。

第四圖は路上に荷車を放り出し、八百屋は路上に

(第3圖)



(第4圖)



右側の商店も看板の突端が僅か一寸餘り側溝線、即ち官地私地の境界を犯して居るけれども柱の建て場

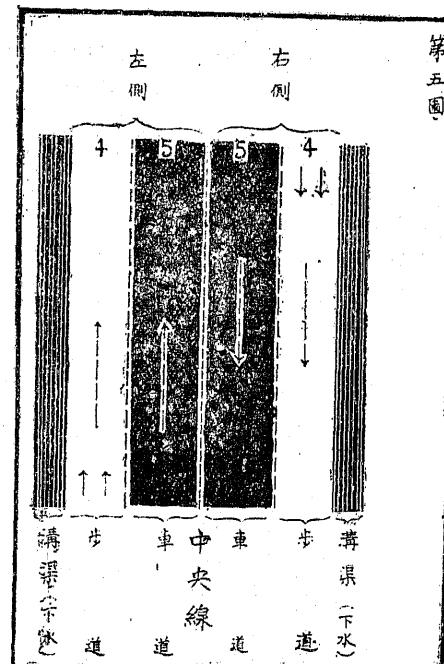
に荷造り又は荷解場として居る有様で、之れでは全く血液たる國民が血管を循環しやうとしても鬱血してまた如何ともすべからざる次第であります。一方の側でも敗けじと看板やら軒やら旗やらを矢鱈に突き出し、或は塵芥箱を出して腐臭紛々傳染病媒介の蠅を簇生せしめて、邊たり構はぬといふ實に我儘勝手な遣り方であります。道路取締令が出て以來は大分改まりたる模様なるも仲には承知しつゝ尙ほづうづうしく横着をして居て取締令に觸れ近隣の人々より○○議員を辭せと突込まれたといふ例もあります、如斯人の邪魔迷惑になるやうな擅恣行爲は一面自己の人格を損傷するものであつて慎まねばならぬことであります。

第五圖は車道歩道の區別が出來て居らぬところに於ける往來の方法である、前項に於て勝手氣儘に道路に邪魔物を出してはならぬといふ次第は、詰り交通の障害の防止に外ならぬのであります、また人々各左側を通れといふのは血液が血管を通るにも上り下り即ち動脈靜脈を一緒には出來ないので同一理で、彼の汽車でも上り下りは必ず區別して嚴重に

も亦同様規則に外づれたとをするが、それが事故の發生原因となる場合が多いのである、依て之を防止

勵行して居るが、たまには時間の差誤或はポイントの間違ひ其他で慘事を見る事があるが、道路上に於て野菜を陳列し、電柱は狭き路上に頑張り、松の木は突出して路上を鬱濃ならしめ、商人は路上を勝手

(第5圖)



保護の爲めに左側通行の勵行を強制して居るので、道路取締令の精神もこれに基因して居ることゝ思ふ。然らば歩道と車道の區別なき道路の交通方法は如何? 狹き三間幅位いの道は如何にする? といふ人もあらうが、其の場合三間は尺に直すと十八尺で夫れを左右に二分すると九尺宛になる、其の九尺の内、側溝の方から四尺が歩道で、中央に残る五尺が車道といふ譯である、自動車は普通其幅員五尺位なるが十五尺幅即ち二間半の場合には兩側溝より四尺宛が歩道で、中央に残る七尺を諸車が互ひに避けて往來するといふ心持になり、それより狭き道には自動車や大荷物車等は滅多に通行することはないから、臨機の處置を取ることである、東京市營電車の最も混雜する停留場には電車軌道の外側に幅四尺の安全地帶(セーフティゾーン)が設けてある、此の四尺より出遮張ると電車に觸れ自動車に突き飛ばされるのである、また此の安全地帶内でも各々左側を通らねばならぬ、横に並んで歩けば僅かに四尺しか無いから衝突する、故に横隊行進は相成らぬ、それも他

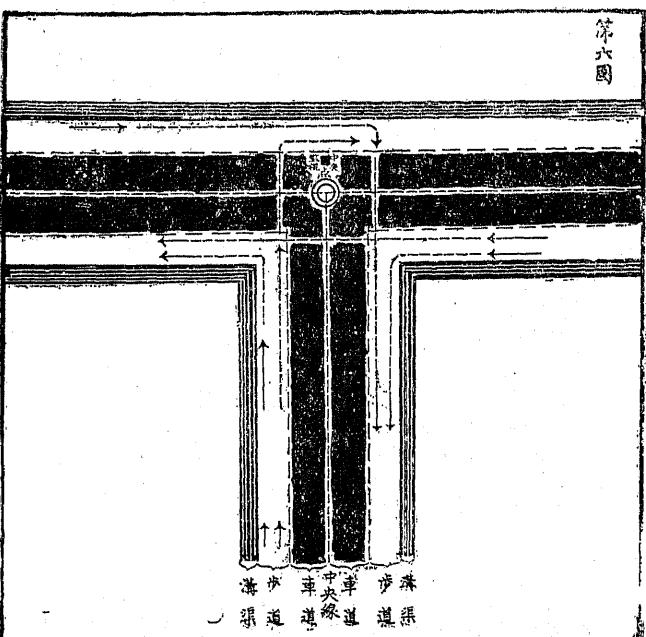
に人が居ない場合等は此の限りでないが、成るべく注意することである、實に人間といふものは座して

決して無節制にあるべきものではない、大道闊歩など、泥醉豪語して一般の迷惑をも顧みさる如きは、決して人の道ではありません。

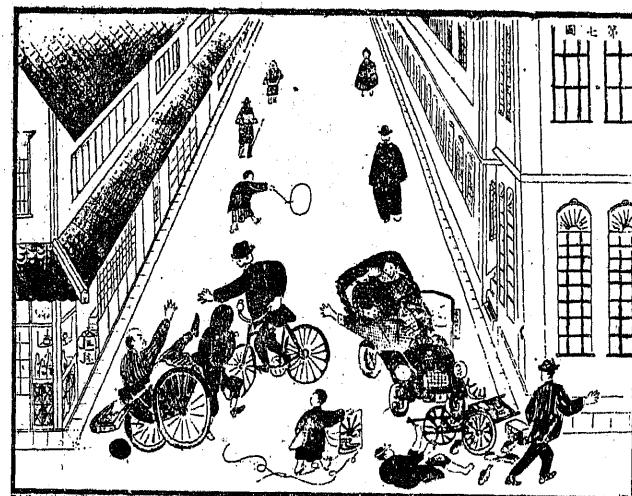
第六圖は道路の曲り角を歩るく時の心得である、即ち道路の街角を左りに曲つて行くときは小曲りをし、又右曲するときは大曲りをして行かねばなりませぬ、其の譯は反対の方向より来る人に衝突すると云ふことになるからである、されば圖に示す如くし、また道路を横切るときは手前より敏活に向ふへ移動することが必要である、何んとなれば道路を斜に横切るときは危険區域を通行する時間が長くなり、従つて危険率が多くなるので、圖に示す如く真直に向ふ側へ早やく移り、而して後左側を通行すべきであります。

具者となる例は本誌第五卷第二號に掲載した通りであるから各人注意し。小供と雖も道路では遊戯など半疊、寝て一疊歩るく道路が只四尺、天下の大通廣

しと雖も、己れが自由の通行範囲は如斯にして人は



(圖六 第)



第七圖は色々な人が左側通行を守らざりし爲め、交互衝突し又子供が道路で遊戯を爲し交通の妨げとなつて居る處である、前に記せる如く一般が如何によく道路取締令を守つても中に少數の心得違ひがあると衝突したり怪我をしたりして、生れもつかぬ不

して交通妨害とならぬやうにせねばなりません。

こんな小供は甚だ宜くない。

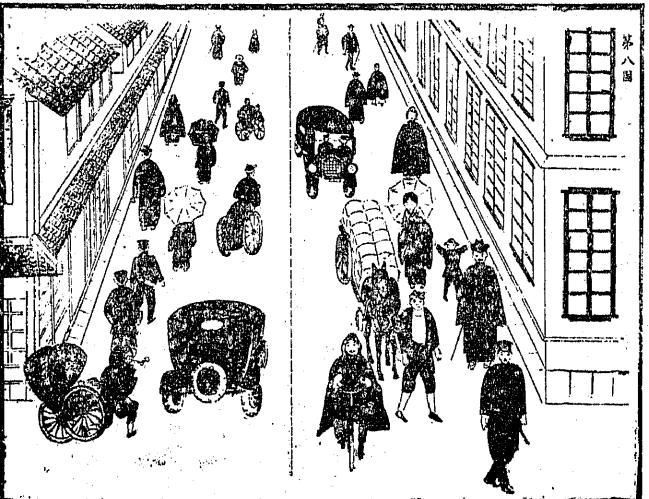
第八圖は前の圖と異なり道路取締令が誠に氣持よ

ことにすれば決して人に迷惑も懸けず、又自己に於ても安全であるから自他の爲め常に此の心して行かねばならぬのである。

(第)

八

(圖)



く正しく行はれて居る圖である、人は凡べて道路の兩側を各自左り／＼と歩るき、又車は其内側を通る

(二二二)と號令するのを見ても判る、また之を「又」字であります、宣べなる哉人の活動する第一歩の形を取りて之を人の行と謂ふて居ります。

又行二字を分析すれば(彳)(子)といふ二字に分れる、即ち彳は人と謂ふ字の上方に頭がついて前方を向いて居り、而して其人は左足から踏み出し始めた形であつて、また一方子の字も同じく彳の進みて正しく移動變化せるものである。要するに人が左の足から踏み出し更らに右の足を進める形から起つた文字であります、宣べなる哉人の活動する第一歩の形を取りて之を人の行と謂ふて居ります。

彼の體操の折に前へ進め 左り右 左り右或は一二二と號令するのを見ても判る、また之を「又」字と謂うて居る處もあります

又徳といふ字を見ても左から踏み出して、彳と思ふといふ事を希望してやまぬ次第である。即ち

(一)道路は國家の血管である

(二)人が道路を通るは血管を循ると同様である
(三)道路は血管が人体に取り最も貴重なる如く國にとり最も重要なものである

國民たるもののは之を愛成

存護するに充分の注意をなし、片時と雖も念頭を去つてはならぬ、倫敦を襲つた獨逸飛行機を砲撃して、或是爆發或は退散せしめたものは、自動車砲隊であるが、其自動車砲は何處を通つたのであるか……道路……

が之れに依つて御了解が

出來たこと、信するから、將來は必ず之を踏み行

・改良……人は家一步を出づれば道である。